



株式会社日本触媒

2013年3月期第2四半期決算説明会



2012年11月7日



日本触媒

お詫び

2012年9月29日、弊社姫路製造所にて発生しました爆発・火災事故につきまして、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げ、ご遺族に対し心よりお悔やみ申し上げますとともに、負傷された方、近隣の皆様、関係各位に多大なご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

長期経営計画 「テクノアメニティ2015」の進捗状況と 2012年度業績見通しについて

代表取締役社長
池田全徳

目次

1. 事故の概要と対応
2. 2012年度業績動向
3. 主要事業の動向
4. 利益還元策
5. 中長期経営計画について
6. 信頼回復に向けて

用語解説

SAP	高吸水性樹脂
AA	アクリル酸
AES	アクリル酸エステル類
EO	酸化エチレン
EG	エチレングリコール
NAII	エヌエイ・インダストリーズ Inc【米国】
AAL	アメリカン・アクリル【米国】
NSE	ニッポンシヨクバイ・ヨーロッパN.V.【ベルギー】
NSI	PT.ニッポンシヨクバイ・インドネシア【インドネシア】
SAA	シンガポール・アクリリック Pte Ltd【シンガポール】
SGA	シンガポール・グレースナル・アクリリック Pte Ltd 【シンガポール】
NSC	日触化工（張家港）有限公司【中国】

1. 事故の概要と対応

- **発生場所** 姫路製造所 アクリル酸（中間）タンク 【※次ページに参考図】

- **人的被害**

死者1名（消防吏員）、負傷者36名

- **損害見込額**

姫路製造所全設備が停止した場合の機会損失額は、1日当たり約1.5億円、設備損壊による復旧費用等は今のところ不明ですが、50億円程度（保険求償による補填を考慮せず）

- **原因と対策**

現在、関係ご当局による調査中であります。

弊社は、事故対策本部を設置し事故原因調査等を全力で進めております。





また、外部の学識経験者を中心とする事故調査委員会を10月5日に設置し、原因究明等を進めております。

さらに、安全生産技術統括室を10月17日に設置し、事故原因の究明を進めており、判明次第再発防止策の策定・実施ならびに全社への展開を進めてまいります。

1. 事故の概要と対応

発生場所：姫路製造所
 アクリル酸中間タンク (●)

製造設備に付随するタンク
 事故により直接損傷を受けた生産能力は、
 同製造所内アクリル酸生産能力全体の約3割

-  タンクヤード
-  基礎化学品製造ヤード
(AA、AES)
-  機能性化学品製造ヤード
(SAP、電材など)
-  触媒製造ヤード



1. 事故の概要と対応

● 操業状況：

全製品製造プラントの操業を停止中
稼働再開時期は現時点では不明

<ご参考>

姫路製造所 主要製品生産能力		(単位：万トン/年)			
製品名	姫路(a)	当社グループ(b)	(比率：a/b)	備考	
AA	46	62	(74%)	410 (世界需要)	
SAP	32	47	(68%)	180 (世界需要)	
AES	13	23	(57%)		
無水マレイン酸	3.6	3.6	(100%)		
特殊エステル	3.6	3.6	(100%)		
フェニルマレイミド	0.6	0.6	(100%)		
アクリル	0.6	0.6	(100%)		
自動車触媒	450万含浸回	—			

姫路製造所製品の売上高：連結グループの約50%

マーケットシェア、当社グループ内シェアの高い製品が多い

1. 事故の概要と対応

● 事故調査委員会 10月5日設置

<社外有識者>

委員長	田村昌三	東京大学名誉教授
	荒井保和	元高压ガス保安協会理事
	越 光男	東京大学大学院工学研究科 総合研究機構特任教授
	中村昌允	東京農工大学工学府産業技術専攻教授

<社内>

	尾方洋介	代表取締役専務執行役員
	北野正雄	安全生産技術統括室長、日触物流(株)代表取締役社長
	小林博也	レスポンシブル・ケア室長

● 安全生産技術統括室 10月17日設置

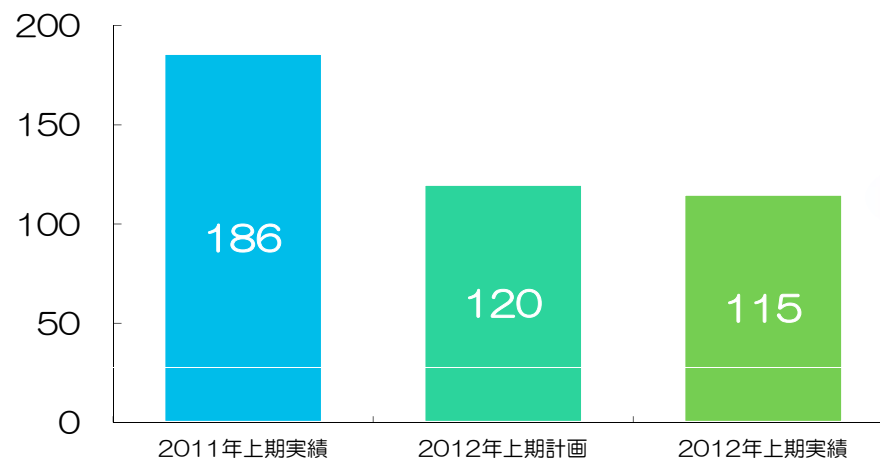
姫路での事故を受けて、
原因の究明、再発防止策の策定ならびにその全社的展開を行う

2. 2012年度業績動向 (1) 上期業績

上期：前年同期比減収減益

- **需要減退** 欧州債務問題を契機とする世界的景気減速（特に7～9月期）
経済成長を支えてきた新興国の成長鈍化
円高の継続
- **スプレッド悪化** 想定したとおりのAES市況下落

上期経常利益（単位：億円）



期初想定とおりの利益水準
（平時の実力）を確保

2. 2012年度業績動向 (2) 下期・通期業績

下期・通期：事故を受けて前年同期比大幅減収減益を想定
現時点では「未定」

	2011年度			2012年度		
	上期	下期	通期	上期実績	下期推定	通期推定
売上高 (億円)	1,639	1,568	3,207	1,493	-	-
経常利益 (億円)	186	145	331	115	-	-
ROA (総資産経常利益率)	11.1%	8.4%	9.7%	6.5%	-%	-%
ナフサ価格 (円/kL)	57,000	52,900	54,900	55,200	-	-
為替レート (円/USD)	80	78	79	79	-	-
為替レート (円/EUR)	114	104	109	101	-	-

2. 2012年度業績動向 (3) 下期事業環境

需要動向

先進国経済の低迷を受けて、新興国の成長鈍化
→ 需要成長減速

価格動向

原料： ナフサ 55,000円/kL

製品市況：需給をふまえ原料価格変動見合いを想定

円高継続 下期想定：75円/USD、100円/EUR

姫路製造所の事故：再稼働時期不明

国内（川崎、吹田、グループ各社）および海外拠点の活用

他社からの製品調達

他社への生産委託

3. 主要事業の動向 (1) SAP

需給動向

需要 世界需要 約180万トン（2011年推定）

2012年度：世界経済減速で5%成長を想定

供給 既存大手以外の新興メーカーも参入・増強を計画

当社の状況とアクション

2012年度は能力増強の端境期

姫路製造所

全プラント休止中

稼働再開の時期は現在のところ不明

海外拠点

NAI（米国）： テネシーの旧プラントの期間限定再稼働を検討中

NSI（インド 初）： SAP 9万トンのうち、3万トンを2013/3稼働、残りは8月稼働
ボトルネックは主原料のアクリル酸手当

NSE（ベルギー）、NSC（中国）：生産最大化を目指す、増産余地は少ない

3. 主要事業の動向 (2) AA

需給動向

需要 世界需要 約410万トン（2011年推定）

2012年度：世界経済減速で4%成長を想定

供給 中国、韓国で増強計画計62万トン

（稼働時期、稼働率を勘案しても需給はやや軟化の傾向か）

当社の状況とアクション

姫路製造所

全プラント休止中

稼働再開時期は現在のところ不明

8万トン増設計画（2013/8稼働 当初予定）：事故後建設工事は中断

海外拠点

NSI（インド 祢ア）、SAA・SGA（シガポール）

高稼働が続いており、増産余地ほとんどない

商品購入

海外AAメーカーに供給を打診

3. 主要事業の動向 (3) AA/SAP世界展開

2014年末

社名	国	場所	AA	(生産能力 万トン/年)		SAP	(生産能力 万トン/年)	
			2012年4月 現在	増設計画	商業運転	2012年4月 現在	増設計画	商業運転
日本触媒	日本	姫路	46	8	2013年 8月	32		
NAII	米国	テネシー				6	-6	2012年 6月
		テキサス					6	2012年 6月
AAL	米国	テキサス	6					
NSE	ベルギー	アントワープ				6		
NSI	インドネシア	チレゴン	6	8	2013年 8月		9	2013年 8月
SAA・ SGA	シンガポール	ジュロン島	4					
NSC	中国	張家港				3	3	2014年 7月
合計			62	16		47	12	
計画完成後 合計				78			59	

3. 主要事業の動向 (4) EO事業

需給動向

需要 2012年度：当社EO総需要 前年比2%増を想定
供給 海外の他社EG増強（2012年計110万トン）は、
石炭系が多く品質に課題

当社の状況とアクション

川崎製造所製品は、ほぼ平常通りの生産・販売

①非EG化

②EOセンター化：誘導品の増設

2012年4月	コンクリート混和剤用ポリマー	16,000 トン/年	川崎
2012年4月	洗剤ビルダー用ポリマー	2,500 トン/年	川崎
2013年10月	(メタ) アクリル酸特殊エステル	20,000 トン/年	川崎

<ご参考>

川崎製造所製品（EO系製品群）の売上高：連結グループの約20%

3. 主要事業の動向 (5) 自動車触媒 (6) その他製品



自動車触媒事業の新展開

Umicore Shokubai S.A. (2012/9/28 当社40%出資)

<在ルケンブルグ、統括会社>

- ユミコア日本触媒 (日本)
- 米国子会社
- 中国子会社
- ドイツ子会社
- ブラジル子会社

2012/10/1

アイティー (日本) から事業譲渡

日系自動車メーカーへ
全世界での供給体制構築

- 出資比率: 50% → 40%
- 事業地域: 日・米 → 全世界
- 顧客: 日系自動車メーカー (不変)
- 連結取扱: 持分法適用関係会社 (不変)

姫路製造所は、事故後生産停止中

その他製品

電子情報材料、精密化学品、特殊エステル、機能性ポリマー、各種触媒など

殆どが姫路製造所の生産品

生産設備は、**全面的に操業停止中** → 安全を確保し、速やかな生産再開を目指す

4. 利益還元策

事業拡大や企業体質強化等を総合的に勘案しつつ、
連結業績動向を見通し、中長期的水準向上を目指す

コア事業の拡大投資と姫路事故による収益悪化

2011年度配当

当期純利益 213億円
22円/株

円/株	中間	期末	合計
普通配当	11	11	22

2012年度配当 (期初予想)

当期純利益 195億円
22円/株

円/株	中間	期末	合計
普通配当	11	11	22



中間配当 : 11円/株を実施
期末配当 : 現時点では「未定」

5. 中長期経営計画について

現長期経営計画「テクノアメニティ2015」 2012年度で終了

- AA/SAP世界展開
 - ①NAII SAP 6万ト、ビルド&スクラップ：2012/6 新設備稼働開始
 - ②NSI SAP 9万ト、AA 8万ト 新增設：計画通り進捗（2013/8稼働予定）
 - ③NSC SAP 3万ト 増設：計画通り推進（2014/7稼働予定）
- 既存製品の収益改善（収益改善委員会）
- 新規事業（電材、新工ネ、電池材料）を軌道に乗せる
- 健康・医療分野に足がかり「健康・医療事業準備室」2012年8月設置



2013年度は単年度計画の下、復旧に全力投球
2014年度以降の中長期計画を2013年度中に策定予定

6. 信頼回復に向けて

今回の事故で失った信頼の回復に向けて、真摯に全社一丸となって取り組む所存です。

まず、喫緊の課題として次のことを行います。

1. 亡くなられた方、負傷された方への誠心誠意の対応
2. 事故の原因究明と再発防止策の実施
3. サプライチェーン回復に向けた最大限の努力

さらに、重要課題として不測の事態にも一定の供給責任を全うできる体制の構築に取り組んでまいります。

今後とも、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

おことわり



本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 IR・広報室

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7477

FAX： 03-3506-7598

URL： <http://www.shokubai.co.jp>